

第71回しずない農業協同組合通常総会開催

全6議案原案通り可決される



少や加速する高齢化、更には労働力不足など、農業・農村は多大な課題に直面しており、今後の情勢に注視しなければなりません。昨年の日高地方は、2月の大雪による農業用ハウスなどの農業施設の倒壊被害や、6月から7月にかけての長雨の影響による牧草収穫等の遅れ、更には9月6日に発生した北海道胆振東部地震による「広域停電」があり、例年になく自然災害に見舞われた1年でした。

当JAの昨年の販売実績は、水稲は作況指数94と不良であり、天候不良による収量減少した中、全量1等米で、特別栽培米「万馬券」もタンパクを含め、高品質な「安全・安心」な良食味米を生産することができました。又、町の産業振興を図るため、JA・観光協会・町商工会等で構成された「新ひだか町地酒づくりに協議会」を発足し、静内産酒米を使用した地酒がまもなく完成され、その名も「海桜丸」というネーミングで皆様にお披露目するところですので、どうか、多くの皆様にご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

青果は、2月の大雪によるハウス

倒壊など多大な被害を受けましたが、関係団体・各方面からのボランティアの方々等による多くのご支援をいただき、早期復旧することができ、ミニトマト「太陽の瞳」の収量は、昨年より減少したものの、単価が高値で推移したこともあり、取扱金額も9億1,500万円と、昨年に引き続き9億円を突破することができ、青果全体では、10億円を超える実績となりました。又、本年も2組の新規就農者の参入が予定されており、本年こそは、ミニトマト部会が目標として掲げる10億円を目指して参ります。

畜産物は、酪農・黒毛和牛を中心に12億8,100万円の販売高となりました。その中で、酪農については、乳価が100円台で推移しており、経営の安定につながっており、黒毛和牛についても、依然、市場では高値で推移されており、年間の販売金額でも3年連続の6億円の突破となる6億4,300万円となりました。これら、軽種馬を除いた農畜産物合計は、23億7,100万円と、計画対比107.1%増の達成となり、生産者各位のご努力に敬意と感謝を申し上げます。基幹産業であります軽種馬販売につきましては、市場販売取引頭数は、343頭で、31億6,000万円の実績と

なり、北海道市場も2カ年連続の100億円を超え、活気に満ち溢れた年となりました。引き続き、競走馬生産振興事業を活用し、市場景気が良い中で経済変動に強い経営基盤を作っていくよう協力していきたいと考えております。又、当JAの生産者においても、中央・地方ともに、G1優勝を飾るなど静内産馬の存在感を示す活躍がありました。改めまして、生産牧場の皆様にお祝いを申し上げます。

JA全体の各部事業は、厳しいJA財務の中、組合員皆様の協力のもと、ほぼ計画通りの実績を残す事が出来ました。しかしながら、財務上では、財務の健全化と新たな形のJAとしての体制を整える為、その利益を農協財務に引当てさせて頂きました。結果、今年度は5百26万5千185円の剰余金処分案とさせて頂きました事、ご理解を頂きたいと思っております。

令和元年度に向けましては、産業奨励事業を中心に事業推進に関わって参りたいと思っております。又、地域農業の高齢化に伴い、持続ある農業経営の確率の為、担い手の確保が必要不可欠となっております。特に、新規就農については、24年以降30年度末までに19組30名の方が就農、研修しています。今後も担い手・新

4月17日、新ひだか町公民館において「第71回しずない農業協同組合通常総会」が開催されました。冒頭挨拶において、西村和夫代表理事組合長より「日本を取り巻く農業情勢は、国際的にはTPP11協定・日欧EPAが発効され、本格的な国際化が進展し、農家の担い手の減